スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

【岐阜県高山市】
令和５年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	岐阜県高山市
担当課名	高山市教育委員会　学校教育課
電話番号	0577-35-3154

１．自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

人口	83,207人	部活動数	９０部活
公立中学校数	12校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	中学校部活動地域移行検討委員会（年3回実施）
公立中学校生徒数	2328人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	県のガイドラインを活用ロードマップを作成

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【高山市】〈地域移行の現状〉 謝金活用のクラブ２種類

①ハンドボールGlanz飛騨高山
- ・高山市ハンドボール協会が運営主体
- ・指導者はハンドボール協会から派遣
- ・男女それぞれ１チーム
- ・市内誰でも加入可能
- ・中体連にも参加可能
- ・主な練習場所は、飛騨高山ビッグアリーナ及び市内小学校
- ・練習頻度は、平日１日、休日１日（大会前は除く）

②高山中学剣道クラブ
- ・高山市剣道会が運営主体
- ・指導者は剣道会から派遣（教職員も含む）
- ・東西南北の４チーム
- ・市内１０の中学校を４つに編成している
- ・主な練習場所は、市内の各中学校
- ・練習頻度は、土日のどちらか１日

【高山市】〈地域移行の課題点〉

①人
- ○指導者の確保と質、謝金
  - ・確保については、各競技種目団体と協力して確保に動いている。（人材リスト作成等）
  - ・質については、部活動指導員の研修と同様の研修を計画している。（修了証配付等）
  - ・謝金については、国の実証事業を活用中（今後も活用を検討している）

②物（地域移行後の備品や道具等の扱いについて）
- ・中学校部活動地域移行検討委員会（年３回実施）において検討中

③場所
- ○活動場所の確保…学校施設を中心に活用していく。（検討委員会で決定）
  市の施設は他の社会人ｸﾗﾌﾞと同様に予約→抽選を行う
  ※国の補助を活用し、学校施設の改修を行う計画（入口・セキュリティ・倉庫等）
- ○活動場所への移動について
  - ・支所地域について、旧市内まで来るために距離があるため課題である（検討中）

☆全体的な目標としては、令和７年度の中体連後には、すべての部において、「協会クラブ」、「保護者クラブ」等の形で地域移行を完了予定。今後も段階的に進めていく予定である。

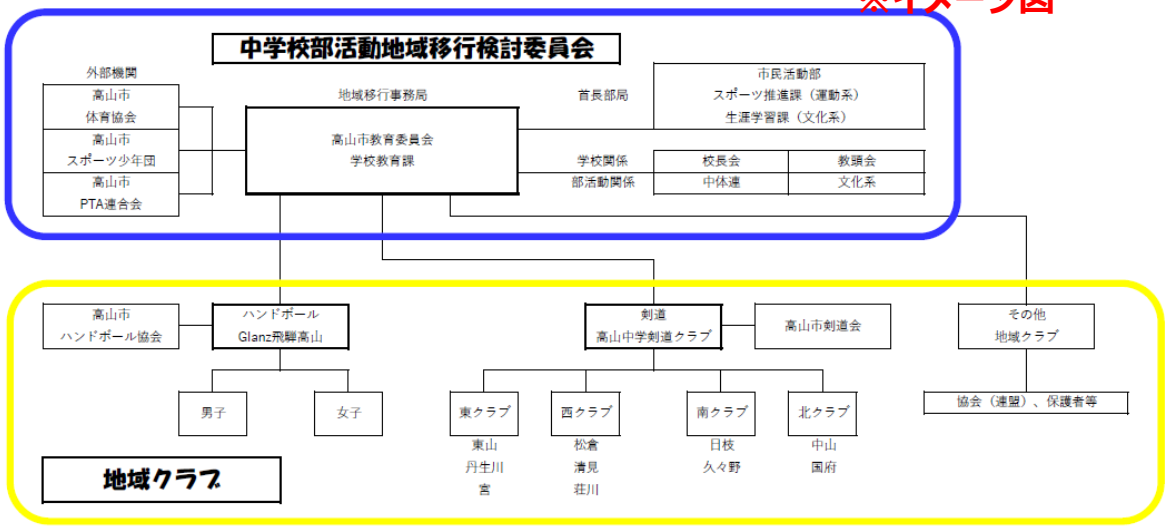
2．実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）

高山市地域移行イメージ図

※イメージ図



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（学校教育課）
  - ・地域移行事務局（部活動担当主事が主務者）

- **首長部局**（市民活動部）
  - ・スポーツ推進課（運動系）…検討委員会に参加
  - ・生涯学習課（文化系）…検討委員会に参加
  - ※今後、役割分担を検討していく必要有

年間の事業スケジュール

【令和５～６年度のスケジュール（計画）】

☆中学校部活動地域移行検討委員会（６月、１０月、２月に３回実施）

～１２月・・・広報たかやまやヒットネットTV（高山市のローカルTV）でPR活動（広報誌に特集、TVにて特集、市の広報広聴課が企画・協力）

２月・・・新入生説明会において、地域移行について現状を周知（１２中学校すべてに資料を配付及び説明を行った）

☆年間通じて・・・・競技種目代表者との懇談（今後地域移行を進めていく予定の競技種目）

指導者は県の研修（年間３回実施予定）に参加し、指導者ライセンスを取得していただく予定（未受講の指導者対象）

４～５月・・・教職員対象にアンケート調査の実施

５月・・・地域クラブ指導者研修会（上旬頃に予定）

６月・・・第１回中学校部活動地域移行検討委員会（６月１２日（水））

１０月・・・第２回中学校部活動地域移行検討委員会（１０月１７日（木））

２月・・・上旬に新入生説明会（１２中学校）にて現状についての資料を配付及び説明

２月・・・第３回中学校部活動地域移行検討委員会（２月１７日（月））

2．実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

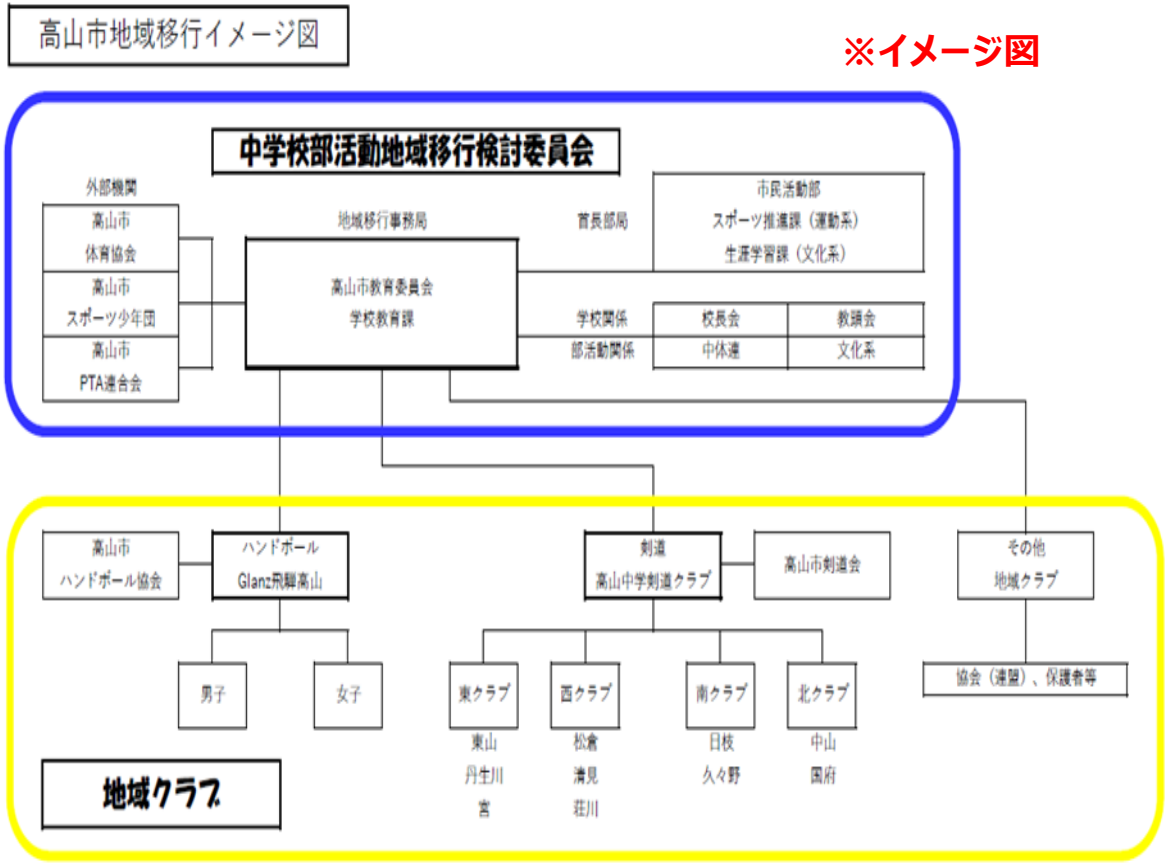
拠点校数	ハンドボール１校 剣道４校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	ハンドボール 剣道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	ハンドボール市内の部活 剣道１０部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	ハンドボール拠点はなし 日枝中、松倉中、中山中、東山中が拠点校
地域クラブ活動に移行した部活動数	ハンドボール･･･市内誰でも加入可 剣道･･･１０部活
地域クラブ活動で実施した種目	ハンドボール 剣道
運営団体名	ハンドボール･･･Glanz飛騨高山 剣道･･･高山中学剣道クラブ（東西南北）
運営類型	市区町村運営型（競技団体連携型） ハンドボール･･･高山市ハンドボール協会 剣道･･･高山市剣道会
１か月あたりの平均的な活動回数	ハンドボール：月８回程度（平日１、休日１） 剣道：月４回程度（休日４土日のどちらか１日）
指導者の主な属性	各協会員（教職員も含む）
活動場所	ハンドボール･･･飛騨高山ビッグアリーナ、市内小学校等 剣道･･･各中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、自家用車など
１人あたりの参加会費等（年額）	ハンドボール：６０，０００円／年 剣道：０円／年（検討中）
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

・２種目（ハンドボール３名、剣道８名）において１１名の地域クラブ指導者の謝金に活用した。

取組の成果

①ハンドボールにおいては、男女で３名の指導者に対する謝金に活用した。
・男女ともに県のガイドラインに従って活動を行っている。その中で、女子のチームが、中体連県大会優勝（東海大会出場）、新人戦県大会優勝を果たした。
・協会から派遣している指導者により、専門的な指導が受けられることで、限られた時間の中でも力をつけることができた。

②剣道においては、市内で４チーム８名の指導者に対する謝金に活用した。
・教員中心の指導者であるが、市の剣道会にも所属し指導力もあるため、専門的な指導を受け、中体連県大会で上位入賞、東海・全国大会に出場した。
・部活動の顧問は中体連の大会（協力依頼）以外の活動には参加していない。働き方の視点からも成果がある。

特に工夫した事項

・剣道について、定期的に合同練習を行うことで、互いに刺激し合って高め合うことができた。また、違うチームの指導者からの指導を受けることができることも魅力である。地元の高校（西高校）の協力を得て合同練習等を行っている。

・剣道について、チーム編成や指導者を定期的に見直す計画がある。
３年を目途にチームの編成・指導者を検討し決定していく。（４チームに２人ずつ配置予定）これによって、いろいろな指導者からの指導を受けられる。

今後の課題と対応方針

・ハンドボールにおいて、指導者を３名から４名に増員したい。理由は、男女のチームがあり、現在男子の指導者１名、女子の指導者２名なので、男子の指導者を２名に増やして指導に当たりたいためである。
・今後は、地域クラブの指導者に対して、市の研修を行うことで、質のさらなる向上を図っていきたい。（R6に計画・実施予定）

2．実証内容と成果

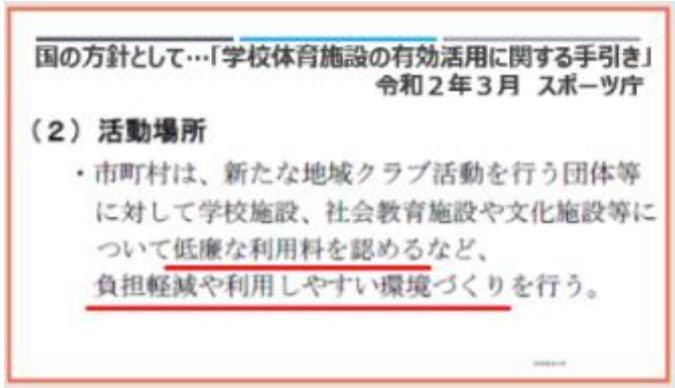
参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

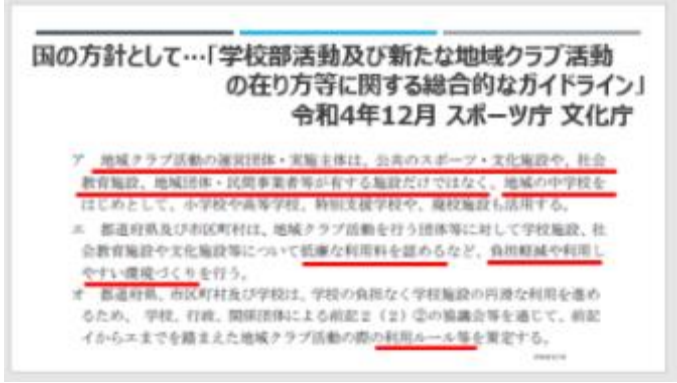


中学校部活動地域移行検討委員会の様子









検討委員会での
プレゼンページ

広報誌
「広報たかやま」
特集ページ



2．実証内容と成果

参考資料（活動写真）



剣道クラブ
練習の様子①



中体連全国大会
激励会の様子
（剣道）



剣道クラブ
練習の様子②



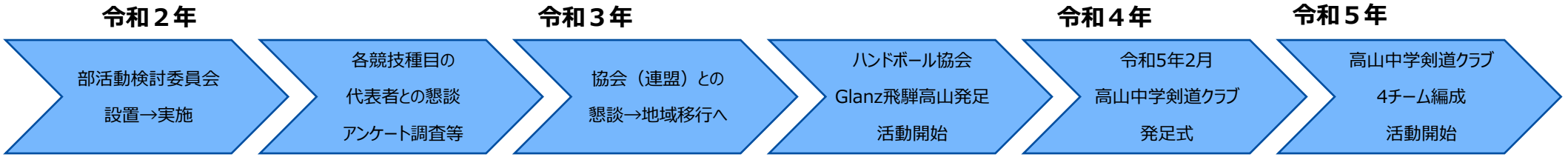
中体連東海大会激励会の様子（ハンドボールGlanz飛騨高山女子）



新人戦県大会優勝（ハンドボールGlanz飛騨高山女子）

2．実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●部活動検討委員会（R2～設置→実施）
※年間３回を計画し、これまで進めてきた。
●メンバーの選出（途中で増加あり）
・外部機関に参加を依頼。
（体育協会、スポーツ少年団、PTA連合会）
・学校関係の代表者に参加を依頼。
（校長会、教頭会、中体連、文化系代表者）
・市役所の首長部局にも参加を依頼。
（市民活動部：スポーツ推進課、生涯学習課）
●令和3年度より、部活動改革について、地域移行の見通しを検討開始（イメージ図作成）
●手探り状態で始まった地域移行であるが、検討委員会の中で、メンバーから意見をいただき、方向性や地域移行の形について少しずつ決めていった。
●高山市の特性（広い面積、中学校区が点在、多くの競技種目（文化系も含む）が存在している）を考慮し、子どもファーストで高山市型の地域移行を進める。
●できる地域、競技種目から段階的に地域移行を進めていく。競技種目や協会（連盟）の代表者との懇談を行い、方向性を検討し、段階的に移行してきた。

【段階的な地域移行】
●令和３年度よりハンドボールにおいて、Glanz飛騨高山を立ち上げ、市内から誰でも加入できる「協会主体のクラブ」として、活動を開始した。初年度は中体連には不参加であったが、令和５年度より中体連への参加が可能となる。
●実施にあたって生じた課題としては、市内から誰でも入れることはよいが、旧市内の４中学校にしか部活動がないため、他の学校の部について、人数不足が心配される。また、地域クラブには入りたくないがハンドボールはやりたいという生徒がおり、その対応に苦慮した。→現在も検討中である。
●剣道において、市内を４つに編成し、学校の枠を超えた地域クラブを立ち上げた。高山市剣道会が主体となり、指導者（教職員中心）を派遣してクラブの指導を行っている。
●実施に当たって生じた課題としては、支所地域から練習場所までの移動手段が課題となっている。練習場所は、合同で行っている学校をもちまわるようには工夫している。また、３年間をめどとして、チームの編成及び指導者の配置を検討することも計画している。
●実施内容としては、ハンドボール、剣道ともに、県のガイドラインを遵守して活動を行ってきた。その中でも、ハンドボールでは女子が県大会優勝、そして東海大会出場を果たした。剣道では、県大会で上位入賞をし、東海及び全国大会に出場を果たした。
●２つの競技共通の課題としては、運営費について検討が必要であることと、保護者会（育成会や後援会）の在り方の検討が必要である。

3．今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

中学校　休日の部活動【高山市型】地域移行について

2024/2/14　　学校教育課

※平日の部活動はこれまで通り行っていく　→　※今後については変更の可能性有

年度/競技種目	運動系部活動													文化系部活動	
	剣道	柔道	ハンドボール	バドミントン	バレーボール	軟式野球	サッカー	ソフトテニス	バスケットボール	陸上	卓球	スキー	水泳	新体操等	吹奏楽	その他
それ以前	部活動	市合同部活動（R2）	各校の部で活動、協会クラブ発足（R3）	部活動（3校のみ）	部活動	合同・拠点方式部活動（3チーム）	合同・拠点方式部活動（3チーム）	部活動（3校女子のみ）	部活動	部活動	部活動		それぞれ既存のクラブで活動中（中体連は学校で出場…役員の関係）	それぞれ既存のクラブで活動中（中体連は学校で出場…役員の関係）		
令和5年度	高山中学剣道クラブ		Glanz飛騨高山（協会クラブ）／部活動	3クラブ開始／部活動											部活動	部活動
令和6年度		高山道場	※部がある学校について、現在検討中	※3校の部において、移行の方向性を検討中	2クラブ開始（男子1女子1）／部活動 ※保護者クラブを中心にして段階的に移行を進めていく			※協会クラブ開始（丹生川、久々野、日枝中新入生を含む 市内加入可能で、男子の受け入れも可能）／部活動	保護者クラブで開幕中（開始時期を検討中） 日枝、松倉、中山、東山の4つ地域を中心に編成を検討中。支所地域については、要相談。	※移行の方向性を検討中（少年団の活用等）	※移行の方向性を検討中（協会と相談中）	県協会（各地域のスキークラブ）で活動（中体連は学校で出場している）	※今後については、検討が必要		※移行の方向性を検討中（合同や拠点方式も考えながら模索中）	※平日の活動のみ（今のところ、休日の活動は考えていない）
中体連後～																
令和7年度						中体連後に地域移行予定	中体連後に地域移行予定（少年団の活用も検討）	中体連後、クラブに日枝中統合							保護者クラブでスタート予定	
中体連後～	☆すべての競技種目において、何らかの形で「地域移行」を行う見通し ※部活動で活動を行うこともあり得る（国の方針） ・協会（連盟）クラブ　・保護者クラブ　・地域クラブ（多様）															※休日なし（今後については、変更していく可能性有）
令和8年度	【目指している地域移行の形】 ☆高山市型の地域移行 ◎子どもファースト…子どもの活動場所の確保（やりたいことを選択してできる環境づくり） ・市一律の地域移行ではなく、子どもや保護者、関係者（市民）のニーズに合わせる ・地域や競技種目の特性を活かす（地域中心、合同・拠点方式など） ※イメージ図															
中体連後～																